

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ

2021年10月10日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「いのちの水を汲み続けなさい」

—神の御心—

テキスト：第2ペテロの手紙2章17～22節

はじめに

- ・アフガニスタンをご存知のように、イスラム教過激派組織「タリバン」の支配下に置かれました。タリバンはキリスト教を西側の宗教と考え、布教活動をする宣教師を徹底的に嫌っているようです。そこで次のようなニュースが流れました。
 - ・アフガン政権が崩壊した直後の8月20日、「229人の宣教師が処刑された」（アフリカ、J.K.チフアフアからの発信）というニュースが全世界に拡散しました。しかし少し時間が経過して判明しましたが、それは全くのフェイクニュースでありました。フェイクニュース、本当に困ったものですね。
 - ・同じように日本でもコロナ・ワクチンに関する誤報が、広く拡散したこともご存じでしょう。例えば、ワクチン接種すると「マイクロチップが埋め込まれる」、「不妊になる」というデマが拡散しました。多くの方々が正しいニュースではなく、デマによって迷わされたと思います。これらのフェイクニュースは、実に困ったものです。
 - ・正しくないニュースが、あたかも正しいかのように流れると、普通は識別することが難しいと思います。しかし、この主の問題は今始まったものではありません。
 - ・今から約2千年前、当時のキリスト教会にも偽教師が現れ、誤った教えが説かれました。そして、それが拡散してしまいました。それは教会が誕生して、30年ほどが経過した頃でした。当時の社会はギリシャ・ローマの異教社会で、町のあちこちには、自然神や守護神を祀る神殿がありました。
 - ・人々は様々な流行、哲学、思想にふけていました。伝道者パウロがアテネの町を訪れたときのことが、[使徒の働き17章17節](#)以降に書かれています。
- 17:21 アテネ人も、そこに滞在する他国人もみな、何か新しいことを話したり聞いたりすることだけで、日を過ごしていた。
- 皆さん。当時の人々も今の時代の人たちと何ら変わらないような生活をしていました。

- ・イエス・キリストの福音は、当時の地中海沿岸に広がった世界に宣べ伝えられ、キリスト教会はあちこちに建てられていきました。人々は苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れました。そして福音を宣べ伝え、人々は信仰の模範として、イエスの足跡に従って生きる者となりました。
- ・彼らは偶像の神々に従ったそれまでの古い生き方を脱ぎ捨て、生けるまことの神に仕える者となりました。ペテロは第 1 ペテロの手紙 2 章でこう言いました。
 - 2:11 愛する者たち、私は勧めます。あなたがたは旅人、寄留者なのですから、たましいに戦いを挑む肉の欲を避けなさい。
 - 2:12 異邦人の中にあつて立派にふるまいなさい。そうすれば、彼らがあなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたの立派な行いを目にして、神の訪れの日に神をあがめるようになります。
- ・彼らは信仰に燃やされ、喜びと感謝をもって信仰生活を送っていました。そして主イエス・キリストはまもなく再臨されるという期待をもって、信仰生活を送っていました。ところがそのような初代教会時代に、偽教師が入り込みました。そして偽教師の教えに誘導され、残念ながら信仰と教会から離れてく人々が現れてきました。
- ・ペテロは今日のテキストにおいても、そのような状態にあった教会の聖徒たちにこの書簡を書き送りました。 2点

大切なポイント

1. 肉欲の奴隷となつてはいけません

- 2:18 彼らは、むなしいことを大げさに語り、迷いの中に生きている人々の間から現に逃げ出しつつある人たちを、肉欲と好色によって誘惑しています。
- 2:19 その人たちに自由を約束しながら、自分自身は滅びの奴隷となつていません。人は自分を打ち負かした人の奴隷となるのです。

1) 肉欲の誘惑

- ・偽教師たちは肉欲と好色という側から、聖徒たちに誘惑をかけてきました。聖書はヘブル人への手紙 1 3 章で次のように述べています。
 - 13:4 結婚がすべての人の間で尊ばれ、寝床が汚されることのないようにしなさい。神は、淫行を行う者と姦淫を行う者をさばかれるからです。
- ・結婚は神が定められた神の祝福です。しかし今の時代も、結婚の意義を軽んじる人々は多くいます。神が不明であるならば、男女の関係も分かりませんから、自分の肉欲に従い生きるようになります。しかしそれは聖書だけでなく、

- 世の中の倫理・道徳においても決して受け入れられることではありません。
- それは家庭の交わりを壊すだけではありません。子どもに不安を与えます。女性の人権を侵害するものでもあります。けれども、そういった狡猾な行為さえも美化し、あたかも純粋な行為であるかのように主張することが誤っているのです。しかも、それは非常に危険であります。
 - 人間の欲望や本能を肯定する思想や哲学は、昔も今も変わりはありません。肉欲の誘惑によって墮落させることがサタンの狙うところです。ですから間違っただけではいけません。聖書はこう述べています。ガラテヤ人への手紙 6章 6:7 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。

2) ほんとうの自由

- 皆さん。今の時代も、互いに好きであるならば、同棲生活も自由であると主張する人たちはいます。一時、彼らは自由を味わうかもしれません。自分の肉の欲するままに、自由を味わうかもしれません。解放感を味合うことでしょう。しかし、それがほんとうに自由というものでしょうか。肉の欲の中にほんとうの自由はないことを、すぐに気づくのです。
- ペテロは 2章 17節でこう言いました。
2:17 この者たちは水がない泉、突風で吹き払われる霧です。彼らには深い闇が用意されています。
ペテロは肉の欲の中で歩んでいる人々を「水がない泉、突風で吹き払われる霧」と表現しました。そこに、渴きを潤す泉があると思いついて、誘われ、そこから汲もうとしても水がないのです。突風が吹けば、立ちどころに消えてしまう霧のように、そこから得られる喜びはほんの束の間のことです。
- やがて、彼らはそこに本当の霊的満たしが無いことに、気づかされるのです。神から離れ、キリストから自由になろうとして、再び古い自我に捕らわれ、罪の奴隷に成り下がってしまいますのです。
- 私たちは福音を信じ、イエス・キリストによって、罪の支配から解放され、律法ののろいと永遠の滅びからも自由にされました。この解放者であるイエス・キリストのもとにあるとき、あらゆる罪、あらゆる悪の力から、私たちは自由であることができます。
- それは神のすばらしい恵みです。しかし、もしキリストから離れるならば、罪の力に引き寄せられ、再び罪の奴隷となってゆきます。ですから「自由」の意味を取り違えてはいけません。私たちを生かす自由とは何でしょうか。イエスは言われました。ヨハネの福音書 8:31 「あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子

です。

8:32 あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

- キリストにとどまるときに、私たちに本当の自由が与えられます。それを不自由に感じるならば、まだこの世のものにしがみつこうとしているからです。肉の思いにまだ立とうとしているからです。私たちはそのような肉欲の者になるではありません。いいえ、いのちの泉であるお方の方に向かう者です。
- ペテロは肉欲に従い生きる者の姿を、さらに述べました。

2. 世の汚れから逃れなさい

2:20 主であり、救い主であるイエス・キリストを知ることによって世の汚れから逃れたのに、再びそれに巻き込まれて打ち負かされるなら、そのような人たちの終わりの状態は、初めの状態よりももっと悪くなります。

- ペテロはここで、一度信仰をもって歩み出した者が、再びこの世に戻ってゆく場合、その人が再び信仰に戻るということがいかに難しいかを知っていました。それは救いにあずかった以前に私たちがいた場所が、どんなに危険な所であったかということです。そして、いつまでもそこに留まっていたはいけない所です。ペテロは「そのような人たちの終わりの状態は、初めの状態よりももっと悪くなります。」と述べました。

1) ペテロの警告

① ソドムとゴモラ

ペテロは2章において、ソドムとゴモラの町の滅亡について語りました。

2:6 また、ソドムとゴモラの町を破滅に定めて灰にし、不敬虔な者たちに起こることの実例とされました。

2:10 特に、汚れた欲望のまま肉に従って歩み、権威を侮る者たちに対して、主はそうされます。この者たちは厚かましく、わがままで、栄光ある人たちののをのしって恐れません。

2:11 御使いたちは勢いも力も彼らにまさっているのに、主の御前で彼らをそしって訴えたりしません。

- 皆さん。これらの聖句から分かることがあります。それはソドムとゴモラの町が滅ぼされたのは、神のさばきによってである前に、自分たちの罪によってでした。聖書の中には、倫理的にも道徳的にも退廃した社会の現状が記録されています。人間の欲、そして罪が野放しにされたときの悲惨さが、そこに記録されています。

② バラム

- さらに、ペテロは預言者バラムを取り上げました。神のみことばを伝える者でさえ、不正の富の誘惑に負けてしまう実例を示しました。聖書の中には、そういう失敗例が多く示されています。人間の罪、人間の欲が真の喜びと平安をもたらすことはありません。
- 確かに、一時は私たちの心を引くでしょう。それは私たちの目には美しく映るかもしれません。そこには自由があるかのように思えます。しかし、それは「水がない泉、突風で吹き払われる霧」にすぎません。
- ですから、私たちはそこに再び巻き込まれないようにしたいと願います。
2:20 主であり、救い主であるイエス・キリストを知ることによって世の汚れから逃れたのに、再びそれに巻き込まれて打ち負かされるなら、そのような人たちの終わりの状態は、初めの状態よりももっと悪くなります。
- 一度つけ込む隙を見つけた悪魔は、いよいよしたたかに私たちを攻撃して来るでしょう。一度、泥棒に入られた家は繰り返し狙われると言われます。詐欺にまんまと騙された人のところには、次々と詐欺師がやって来るものです。
- イエスも次のように言われました。 **マタイ福音書 12章**
12:43 汚れた霊は人から出て行くと、水のない地をさまよって休み場を探します。でも見つからず、
12:44 『出て来た自分の家に帰ろう』と言います。帰って見ると、家は空いていて、掃除されてきちんと片付いています。
12:45 そこで出かけて行って、自分よりも悪い、七つのほかの霊を連れて来て、入り込んでそこに住みつきます。そうすると、その人の最後の状態は初めよりも悪くなるのです。この悪い時代にも、そのようなことが起こります。」
- ペテロはさらに次のように語りました。
2:21 義の道を知っていながら、自分たちに伝えられた聖なる戒めから再び離れるよりは、義の道を知らなかったほうがよかったです。
ペテロはここで格言を引用しました。
2:22 「犬は自分が吐いた物に戻る」、「豚は身を洗って、また泥の中を転がる」という、ことわざどおりのことが、彼らに起こっているのです
それは旧約箴言 26章からでした。
26:11 犬が自分の吐いた物に戻って来るように、愚かな者は自分の愚かさを繰り返す。

2) クリスチャンの祝福

- ・ペテロは神のお心を次のように述べました。 2ペテロの手紙1章
 - 1:3 私たちをご自身の栄光と栄誉によって召してくださった神を、私たちが知ったことにより、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔をもたらすすべてのものを、私たちに与えました。
 - 1:4 その栄光と栄誉を通して、尊く大いなる約束が私たちに与えられています。それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。
- ・ペテロは、クリスチャンが世の腐敗から逃れ、神の性質にあずかる者となることを願いました。神が与えてくださる約束、それは神のご性質に与ることです。それこそ神の祝福です。ペテロはその幸いについて、2ペテロの手紙1章で述べました。
 - 1:5 だからこそ、あなたがたはあらゆる熱意を傾けて、信仰には徳を、徳には知識を、
 - 1:6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、
 - 1:7 敬虔には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。
 - 1:8 これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、私たちの主イエス・キリストを知る点で、あなたがたが役に立たない者とか実を結ばない者になることはありません。
⇒「7つの恵みの性格」です
- ・では、私たちは今の時代で、どうすれば悪の誘惑に負けないで、神のご性質にあずかる者となれるでしょうか。
 - ① ディボーション生活を守ること（心静めて、聖書を読み、祈ること）
 - ② 主とともに歩むこと（いつも祈ること）
- ・イエスは聖徒たちに次のように約束を与えられました。
 - 7:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」 ヨハネ
 生ける水の川から、「いのちの水」を汲み続けることです。そこにはもう渇きはありません。喜び、平安、賛美、感謝、自由が沸き上がる生活です。なんといいいな人生ではありませんか。それが神を信じ従う者に与えられる生活です。

ま と め

主 題：「いのちの水を汲み続ける」

—神の御心—

- 今朝、主は私たちにお語りくださいました。悪の力はますますまん延する世の中です。生ける真の神を信じる聖徒は、どのように生きるべきでしょうか。どうぞ覚えてください。
- 私たちには肉の欲に勝利する力は、まったくありません。ただ一人、死を打ち破り、復活されたお方イエス・キリストだけです。イエスは 肉に打ち勝たれたお方です。
- クリスチャンとは、そのイエス・キリストとともに歩む人です。イエスは言われました。 [ヨハネの福音書](#)
7:38 わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」

*God bless you!